

表現ボランティア「ショコラ」(福山市立大学)

◎チーム紹介と活動内容

「表現ボランティア『ショコラ』」は、福山市立大学教育学部児童教育学科の50名からなるチームです。活動内容は、福山市立女子短期大学保育科で開発した地域の歴史や文化を題材としたオリジナル教材(紙芝居・リズム・運動遊び)を公演し、子どもたちと交流します。また、オリジナル教材「カッチンくん」(ペットボトルの底を再利用した楽器)は、造形活動から運動遊びまで展開できる教材として好評を博しています。

◎活動の様子

活動教室：大崎上島町わくわくスクール大崎・東野教室(2教室合同)

日 時：平成23年8月6日(土) 13:30~15:00

場 所：東野文化センター

参加人数：11名(大学生ボランティア) , 12名(子ども)



被爆アオギリの実話をもとにした「そばにいるよ〜いっしょにあるいていこう〜」と福山空襲の実話をもとにした「母と子の八月八日」のオリジナル大型紙芝居をチーム全員が行いました。大学生たちの迫力のある語りに子どもたちは集中して観ていました。



オリジナル大型紙芝居のあとに「平和の種」を大きく育てていく「リズム遊び」を行いました。

初めは、少し恥ずかしがっていた子どもたちでしたが、だんだんと慣れるにしたがって、楽しく体全体を使って平和の種から花、大きな木へと育てることができました。

○学生の皆さんからの声(インタビュー、アンケートより)

子どもたちがとってもかわいかったし、みんな真剣に聞いてくれて嬉しかったです。子どもたちの反応に直に触れることができとても楽しかったです。大崎上島という普段とは違った地域で活動をすることができたことが勉強になりました。

子どもたちとの活動の中で、自分の教育・保育技術を実践してみて反省点が多々あり、いい経験になりました。今後の自分たちの活動に活かしていきたいと思います。

○市町スタッフの皆さんからの声(インタビュー、アンケートより)

ちょうど、8月6日の広島原爆の日に被爆アオギリと福山空襲の大型紙芝居とゲームで子どもたちの心に平和の大切さ、戦争の恐ろしさが届いたと思います。

福山空襲のことは初めて聞いたという子どもがほとんどで大変興味深く見入っていました。また、保育専攻の大学生ということで子どもの扱いにも慣れており、楽しい時間を過ごせました。